



薩摩川内市教育委員会

全ての小・中・義務教育学校
(全13)における小中一貫教育



薩摩川内市の紹介：平成16年10月12日 1市4町4村が合併し、「薩摩川内市」が誕生
人口：95,306人 (H31.3.1現在) 小学校：26校 中学校：12校

義務教育学校：1校 計39校

1 薩摩川内市の学校教育

ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる薩摩川内のひとづくり

未来をたくましく生きる力をはぐくむ教育の推進

豊かな心

- 「命を大切にすることを育む教育」
 - 命の大切さや思いやりの心を学ぶ授業公開
 - リーフレット「命 輝け」の活用
- 心に届く生徒指導の推進と充実
 - 「薩摩川内いじめのない学校づくりの日」の充実(毎月1日)
 - 市中学生徒会連絡会の充実
- 教育相談の充実やスマイルルーム等の活用
 - 心の教育相談員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携の充実
- ふるさと・コミュニケーション科の充実
 - 薩摩川内元気塾事業
 - 顔アイルランドウォッチング事業
 - 読本「ふるさと薩摩川内学」(改訂版)の活用

確かな学力

- 小中一貫教育における学力向上
 - 9年間を見通したカリキュラム
 - 重点教科を指定した実践研究
 - 「本物の授業を創る10の提案」の自校化と中学校区による共通実践
 - 随検査等の「100点チャレンジ」
 - 「ふるさと薩摩川内学」(改訂版)の活用
- ICT活用の推進と充実
 - ICT支援員の活用推進
 - 情報モラル教育の充実
 - プログラミング教育実施への対応
- 適正な就学指導と特別支援教育の充実
- 小中9年間英語教育の推進
 - 英語サマーキャンプ、中学校英語発表会の充実
 - 英語検定試験の受験奨励(5級・4級・3級の取得等向上)
 - 小学校ローマ字Go!コンクールの推進

たくましい体

- 薩摩川内の特色を生かした体力向上への取組
 - 「小学校綱引競技大会」等の充実
- 「たくましい “薩摩川内っ子” 育成推進プラン」による計画的な体力向上への取組
- 中学2年生を対象とした「AEDを用いた普通救命講習」の実施
- 学校・家庭・地域・関係機関が一体となった児童生徒の安全確保
- 津波・風水害・原子力災害等を想定した防災マニュアルによる避難訓練の実施
- 食に関する指導の充実

小中一貫教育

児童生徒の交流活動・教職員による授業交流 ふるさと・コミュニケーション科

幼稚園教育の充実

高等学校との連携

早寝・早起き・朝ごはん

笑顔であいさつ・お手伝い

家庭学習 10分×学年+30分以上

横断後、ニコッと笑顔でお礼

家庭・地域との連携

コミュニティ・スクール

さつませんたい学校応援団

わくわく薩摩川内土曜塾

鹿児島純心女子大学や鹿児島大学等との連携

新学習指導要領

新学習指導要領の方向性

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実践

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない

主体的・対話的で深い学び(「アクティブラーニング」)の視点から学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を促すための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

視点

本市の授業づくり

- 振り返り見直しこと
- 表現し伝え合うこと
- 各教科の見方・考え方に根ざして学ぶこと
- 「自ら思い切り活動する」
- 「友と学び合い磨き高めあう」
- 「工夫・発見・感動する」

学ぶ喜びや楽しさを味わい深める授業づくり

分かる・できる

薩摩川内市の教育

〔薩摩川内市 教育目標〕
ふるさとを愛し 心豊かにたくましく
生きる薩摩川内のひとづくり

やさしくすれば 心はかよう
はなしをすれば だれでもわかる
考えさえすれば みちはひらける
やりさえすれば かならずできる

(薩摩川内市民憲章 4つの信条)

思いやり、やさしさ

信頼、寛容

創意、工夫

希望、努力

○ コミュニティ・スクールの推進

・「さつませんたい学校応援団」の取組

ふるさと教育

○ 小中一貫教育の推進

・教科横断的、縦断的な教育課程
・ふるさと・コミュニケーション科の取組

家庭・地域との連携

早寝・早起き・朝ごはん

笑顔であいさつ・お手伝い

家庭学習 10分×学年+30分以上

横断後、ニコッと笑顔でお礼

2 本市の小中一貫教育の歩み

第1段階（H18.4.1～H21.3.31）

- ・H16.11 全中学校区で「中小連携」を推進
- ・H18.3 「薩摩川内小中一貫教育特区」として内閣府から認可を受ける
- ・H18.4 3中学校区で「連携型」小中一貫教育をモデル的に推進

第2段階（H21.4.1～H24.3.31）

- ・H21.4 市内の16中学校区で「連携型」小中一貫教育を推進（文科省「教育課程特例校認定」）
- ・H21.4～ 各中学校区実践発表会を開催

第3段階（H24.4.1～H28.3.31）

- ・H24.4～ 文科省再認可ふるさと教育の充実
- ・H24.10～ 小中一貫教育を支える「さつませんだい学校応援団」の組織化
- ・H25.8～ 「小中一貫教育研究会」の開催

第4段階（H28.4.1～）

- ・H28.4.1 「学校教育法等の一部を改正する法律」が施行され、小中一貫教育制度が導入される。
- ・H28.8.23 鹿児島小中一貫教育フォーラムの開催（県との共催）
- ・H29.1 小中一貫教育読本『ふるさと薩摩川内学』の刊行
- ・H29.4～ 3年ごとの各中学校区「実践発表会」の名称を1ランク上げた「研究公開」に変更
- ・H31.3 小中一貫教育読本『ふるさと薩摩川内学』（改訂版）の刊行
- ・H31.4 施設一体型小中一貫校東郷学園義務教育学校の開校

3 本市の小中一貫教育のねらうもの

【小中一貫教育導入前の課題】

- ・ 中学入学後の不登校増加、学習意欲の低下（中1ギャップ）
- ・ 小中教師の指導観や学力観、教育観の相違



【本市の小中一貫教育のねらい】

- ・ 小中学生の交流活動や、小中学校教員の授業交流を通して、小学校へは中学生へのあこがれをもたせ、中学校生活への意欲を高める。
- ・ 中学生へは、小学生への優しさや思いやりの発揮を通して、リーダーシップ力を高め、自分への自信をもたせる。
- ・ 教員は、相互に協力し学び合うことで、自らの教育観をより豊かにし指導力の向上を図る。

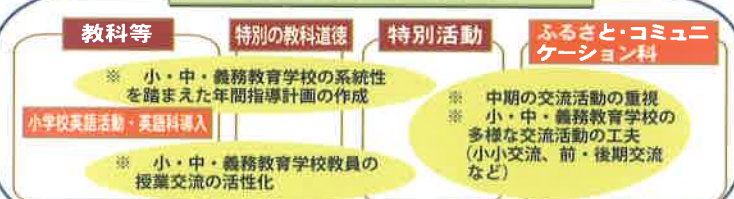


【めざす姿】

- ・ 児童生徒の姿→ 不登校や問題行動等の減少、学力の向上（中1ギャップの解消）
- ・ 教員の姿→ 小中の連携強化、豊かな教育観づくり、指導力の向上

4 本市の小中一貫教育の内容

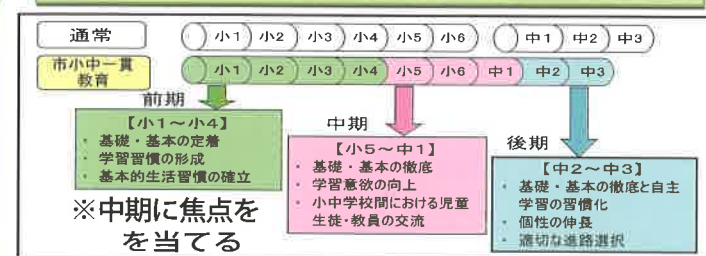
小中一貫教育の教育課程



6・3制に4・3・2制のよさを生かす

小中一貫教育の3つの柱

① 6・3制に4・3・2制のよさを生かす交流活動の充実



② 「ふるさと・コミュニケーション科」の目標

- ふるさとの自然や歴史、文化、人々の営みを横断的・総合的に学ぶことを通じて、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思い、ふるさとに尽くそうとする心を養う。
- また、異年齢集団での学びや地域の人々との交流等を通して、豊かな表現力やコミュニケーション力を高める。
- (1) ふるさとの自然や歴史、文化、人々の営みについて体験的に学び、そのよさやすばらしさについて具体的に理解し、ふるさとに関わる知識や技能を身に付ける。
[知識・技能]
 - (2) ふるさとについて探究的に追究し、集めた情報等をもとに互いに学び合い、自分の思いや考えを豊かに表現したり伝え合ったりする。
[思考力・判断力・表現力等]
 - (3) 人への優しさや思いやりの発揮を通して、自分への自信を高めるとともに、地域の一員としての自覚やふるさとへの誇り、やがてはふるさとに貢献したいと思う心等の自分なりのふるさと観を高める。
[学びに向かう力・人間性等]

③ 英語教育の充実

- 先行実施 小学校5・6年の英語科 70時間
小学校3・4年の英語活動 35時間
- 英検3～5級の受検料補助
- 市少年自然の家での英語サマーキャンプの実施
- 中学校英語発表会の開催
- 小学校英語指導支援員（EST）の活動

コミュニケーション能力の育成

5 本市の小中一貫教育の成果等

【子供の姿】

- ・ 小学生は、中学生との交流活動を通して、優しくアドバイスしてくれる中学生にあこがれをもち、中学校生活への意欲を高めている。
- ・ 中学生は、小学生に優しく助言したり、教えたりすることで、リーダーシップを発揮し自信を深めている。
- ・ 不登校生徒が減少している。特に中1生徒の不登校数は少なく抑えられている。

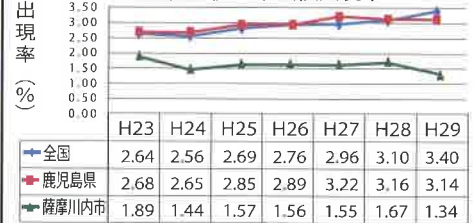


子供の声



- ・ 中学1年生の発表がとても分かりやすかったので、中学1年生みたいにならないうちに発表したいです。
- ・ 中学校の先生から毛筆のこつを習い、上手になりました。
- ・ 小学生が、「説明が分かりやすかった」と言ってくれて、自信になりました。

中学校生徒の不登校出現率



【教員の姿】

- ・ 小中合同の研修会及び各教科等部会の充実（小中教師が一緒になって作る授業等）
- ・ 小中の教員相互の信頼感の深まり

6 今後の課題と方向性

- ・ 授業交流の更なる充実
- ・ 転任教員の意識の啓発
- ・ 「さつませんだい学校応援団」の充実
- ・ 学力向上に向けた各中学校区での共通実践（重点教科を指定しての実践研究等）
- ・ 「共通性と独自性」を踏まえた実践
- ・ コミュニティ・スクールの推進
- ・ 『ふるさと薩摩川内学』（改訂版）の活用
- ・ 開校1年目の東郷学園義務教育学校への支援